

共に学び合い、自己を表現できる子どもの育成

—道徳科における考えたくなる導入の工夫と振り返りを保障する授業を通して—

道徳科 授業の流れ

導入

本時で考えさせたいこと(内容項目)について、子どもたちのいろいろな意見を取り入れて、考えたくなるよう意欲を高めさせる。

ふわり登場♡

児童の発言に対しては...「そうなんだあ...」

1分考えさせて発表

多面的・多角的な考えに触れさせることにより、関心を引きつけ考えたくなる..(えい)

初耳的な感じで ^{アス} 各々の意見を大切に、多様な考えを認める。

登場人物 教材の紹介

資料を読む視点を与える → 注目してほしいところなど1言伝える。

展開

範読

資料内容の理解が授業展開の鍵となるので、子どもたち全員に聞き取れるように、抑揚をつけ感情を込めて読む。(or 録音機器)

場面追い発問 → あらすじの確認

登場人物の人間理解 → 人物の関係性、性格、気持ち、表情など

中心発問

理由・変容・相違・共通点を問う。

(気づかせたいこと)

自分事として考えさせて...
〇〇は、どんな気持ちで行動したか?
〇〇は、このあとどうするでしょう?

問い返し

(考えを深める)

どうのこと? (詳しく述べさせる)
本当にそうかな? (つこむ)

みんなもそう? (全体へ切り返す)
でも、〇〇でもよくない? (ゆさぶる)

終末

導入と同じ問いかけをする。 → 中心発問と関連させて...

まとめを考える。 → 出てきたキーワードなどをもとに子どもと考える。

授業のきまり

聴く姿勢 { えんぴつを置く
体を向ける

話す姿勢 { 発表時のノートの持ち方
相手に伝わる話し方

対話(学び合い)

ペア...自分の考えを自覚するため
グループ...少人数の意見に触れ合う
必要があるとき
全体...多人数の意見に触れ合う
必要があるとき